

「SOSサイン」見落とさないで

健診後のフォローを支援



ヘルスケアネットワーク
作本貞子副理事長

健康診断の受診は、社員の健康状態を知る上で最も有効だが、運送事業者の多くは健診結果が伝えない「SOSサイン」を見落とすがち。健診後のフォローについて、大多数の企業で様々な理由からできていない、または困っているのが現状ではないだろうか。また人材の高齢化が

全ト協事業「運輸ヘルスケアナビシステム」

健康診断の受診は、社員の健康状態を知る上で最も有効だが、運送事業者の多くは健診結果が伝えない「SOSサイン」を見落とすがち。健診後のフォローについて、大多数の企業で様々な理由からできていない、または困っているのが現状ではないだろうか。また人材の高齢化が

健康診断の受診は、社員の健康状態を知る上で最も有効だが、運送事業者の多くは健診結果が伝えない「SOSサイン」を見落とすがち。健診後のフォローについて、大多数の企業で様々な理由からできていない、または困っているのが現状ではないだろうか。また人材の高齢化が

健康診断の受診は、社員の健康状態を知る上で最も有効だが、運送事業者の多くは健診結果が伝えない「SOSサイン」を見落とすがち。健診後のフォローについて、大多数の企業で様々な理由からできていない、または困っているのが現状ではないだろうか。また人材の高齢化が

健診実施後のフォローだ。事業者が課題を抱える部分を業界全体でサポートしていく方法として、同ナビシステムは構築され、健康起因事故につながるやすいハイリスク者の可視化と、システムに基づく予防対策の推進を図り、サポートを実施している。ナビシステムではハイリスク者が一目で分かるほか、労働時間や軽度認知障害の疑い有無など、任意で事業者が情報を入力できる。「健診結果と、これらの情報を合わせて指導を行えば、中小運輸事業者の健康管理の質は格段に向上する。点呼時に薬の服用の有無などとともに、ナビシステムに蓄積された情報を活用していただきたい」と話す。

作本副理事長が、システムの活用でつなげてもらいたいと話すのが、「労災二次健診」の受診だ。脳血管・心臓疾患の発症の予防を目的とした「労災二次健診」は、費用負担がなく、二次健康診断等給付を受けても、労災保険料が上がることがない。「ナビシステムで対象者が浮上すれば、受診の指導が容易になる。近年、企業の健康管理は

いった健康管理代行サービスなども登場しているが、外部機関任せきりにするのはなく、ナビシステムを活用する上で、社員を大切に思う心と責任で、業者自身が社員の健康指導にあたっていただければ」と話す。

また、これまでOCHISが開催してきた両輪会(安全・健康管理)について、事業者が情報交換を行うことで3度、テーマとして取り上げられ、業界内でも話題になることが多いのば、働き方や雇用延長有無などの1つの指標になるのではなか」と提案する。

高齢社員の健康対策は、若い社員への啓発にもなる。「高齢になればなるほど、身体年齢の個人差が大きくなる。健康対策は早すぎるといってほしく、認知障害でもMCIであれば引き戻せる可能性もある。ナビシステムは、あらゆる世代の方が健康に働ける環境づくりのお手伝いができると思っています」と話す。

「健診受診率100%」をうたっている企業でも、フォローまで完璧に実施している例は少ない。今後、健康というテーマは企業経営にとってさらに重要視される。生活習慣のアドバイスなど一連のサポートも受けられるナビシステムは、中小運輸事業者の強い味方になるはずだ。(木村麻理奈)